

さらなる成長加速に向けて 選択と集中を行い、 世界中のものづくりに 貢献してまいります。

代表取締役社長
古川 健一

2018年3月に代表取締役社長に就任しました古川です。
2017年12月期の振り返りと、2018年12月期の見通し、中長期経営戦略などについてご説明させていただきます。

2017年12月期の振り返りと課題

2017年12月期につきましては、中国を中心に放電加工機の販売台数が大きく増加した結果、売上高は656億4百万円と期初計画を大幅に上回る結果となりました。利益面につきましては、決算期変更に伴う特殊要因など一部利益を押し下げる要因もありましたが、販売台数増加が大きく寄与した結果、営業利益は74億90百万円、営業利益率は11.4%と大きく伸ばいたしました。

地域別に見ますと、当社の最大のマーケットである中国において、ものづくりの高度化や自動化対応、中国政府の補助金政策の影響もあり、電動化が進む自動車関連や、高機能化するスマートフォン関連を中心に高水準な受注、販売が見られました。足元では、需要急増による主要部品の供給不足等もあり、生産の遅れや納期の長期化など一部影響は見られましたが、例年受注が減速する秋口以降においても幅広い産業から旺盛な需要が継続しています。

国内では2017年3月に採択されたものづくり補助金が後押しとなり、自動車、スマートフォン関連を中心に受注・売上ともに堅調に推移しました。北米は前期まで好調だった自動

車、航空宇宙、医療機器関連に一服感が見られました。欧州では、ロシア、トルコ等では厳しい状況が続きましたが、ドイツ、イギリス、イタリアを中心に自動車、航空宇宙関連から堅調な需要が見られました。アジア地域においても自動車、スマートフォン、半導体関連などで回復基調に推移しました。

2017年12月期 実績 (単位:百万円)

	2017年3月期		2017年12月期*	
	実績	利益率	実績	利益率
売上高	61,812	-	65,604	-
営業利益	5,236	8.5%	7,490	11.4%
経常利益	4,620	7.5%	7,910	12.1%
当期純利益	3,644	5.9%	5,736	8.7%

※決算期変更に伴い、2017年12月期は当社及び3月決算会社は4～12月の9か月間、12月決算会社は1月～12月の12か月間を連結対象期間とした変則的な決算となっております。

2018年12月期の見通しについて

米国の通商政策及び欧州の政治情勢、東アジアでの地政学リスクのほか、欧米等での金利引き上げに伴う為替変動リスクなどが懸念されるものの、グローバルにものづくりが発展していく中で、設備投資需要は継続的に拡大していくものと見ています。その中でも、当社の主要な仕向け先である自動車産業における軽量化への対応、電動化、次世代自動車へのシフトに加え、スマートフォンの高機能化に向けて、各種センサーやレンズなど微細精密加工のニーズが拡大しており、高精度機の需要はさらに高まっていくことが予想されます。

セグメント別の見通しについては、工作機械事業及び産業機械事業においては、当社の最大の市場である中国は自動車、スマートフォン関連を中心に高水準な需要が継続する見通しです。日本、欧米、その他アジア地域についても、堅調な需要が見込まれます。食品機械事業については、国内外での高品質な麺の製造設備の需要のほか、新製品の包装米飯製造装置の拡大を見込んでいます。その他事業も活況な自動車及び半導体関連の需要が継続する見通しです。

2018年12月期の売上高につきましては、最大のマーケット

である中国での販売増加を見込んでおり、810億円と過去最高を更新する見通しです。営業利益は80億円を計画しております。経営基盤の強化を図るため、人員増加、昇給を含めた人件費の増加及び設備投資の増加に伴う減価償却費等の固定費の増加が見込まれており、利益率は低下する見通しです。

2018年12月期 見通し (単位:百万円)

	2018年12月期	
	計画	利益率
売上高	81,000	-
営業利益	8,000	9.9%
経常利益	8,000	9.9%
当期純利益	5,700	7.0%



➤ 中長期的な方針と重点施策

工作機械事業におきましては、全地域における放電加工機のマーケットシェア拡大を目指します。金属3Dプリンタについては、金型分野での競争優位性を高めるとともに、部品加工分野への市場開拓により販売台数増加を図ってまいります。また、造形速度、メンテナンス性の向上、金属粉末のラインナップ拡充により市場を拡大させます。生産面においては、生産効率の向上、部品の共通化などを推進し製造原価低減を図ってまいります。

産業機械事業については、従前より掲げておりますが海外売上高比率を70%以上に向上させるため、マーケットニーズの高い全電動射出成形機「MSシリーズ」を拡販するとともに、製造原価の低減、販売体制の再構築・営業強化を図り収益力を改善させます。その他にも、アルミニウム合金対応射出成形機「ALM450」、金属3Dプリンタで造形した金型専用の射出成形機「MR30」の販売を本格的にスタートさせ、新たな需要の創出を図ってまいります。

食品機械事業においては、工場拡張により、生産能力を増強させ収益力の強化を図ってまいります。また、製麺技術を応用展開し、麺業界以外からの需要創出を図ってまいります。特に、国内外での需要増加が見込まれている包装米飯製造装置の販路の確立を目指してまいります。さらに、海外市場の需要を積極的に取り込むため、海外市場向けの製品開発を強化してまいります。

中長期的、持続的な成長を実現するため、人員増加、人材開発、労働環境の改善など、優秀な人材確保のため人的投資を増強してまいります。

➤ 配当方針について

成長投資と財務体質強化のバランスを見極めつつ、D0E（株主資本配当率）2%以上を目標とした安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針として、2017年12月期は業績及び今後の事業展開等をふまえ期初予想から2円増配し、1株当たり年間配当を22円とさせていただきます。

2018年12月期は、1株当たりの年間配当金は24円とし、前期より2円の増配を予定しております。

なお、内部留保した資金の使途につきましては、今後の事業活動ならびに経営基盤の強化に有効活用していく考えです。

➤ 最後に

当社は、「世の中にはないものは自分たちで創る」という理念のもと、自社技術をさらに向上させ、新たな製品群への応用を進め、ものづくりを通じて社会への貢献を目指しております。

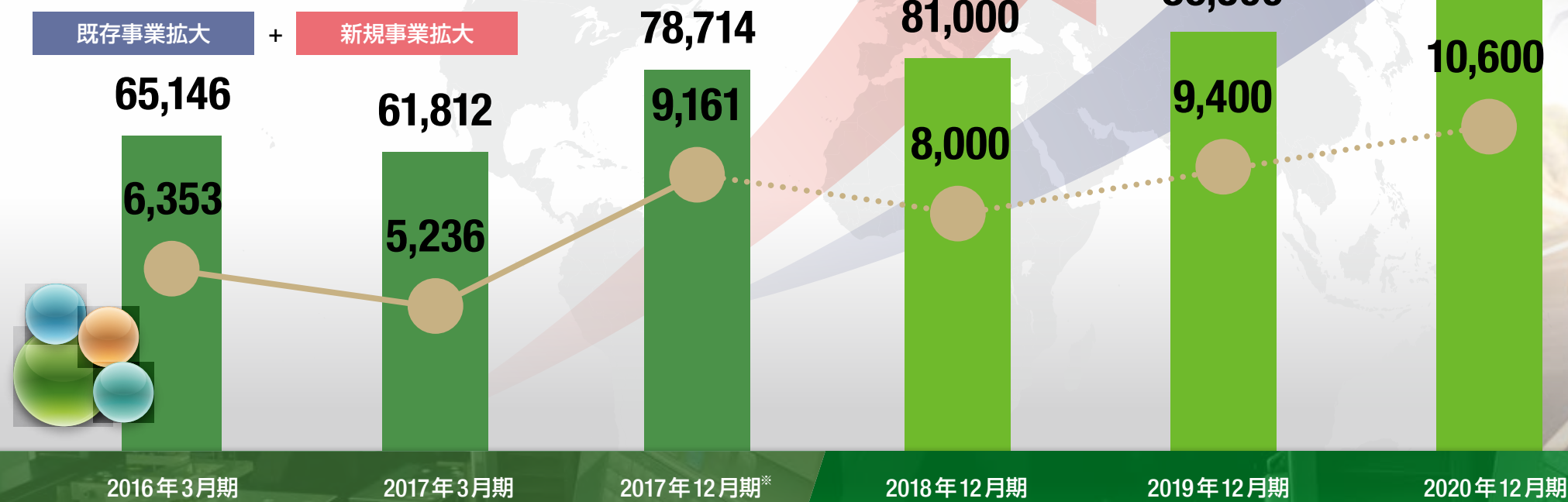
今後も社名の由来である「創造」「実行」「苦勞・克服」を社是とし、自由な発想で創造の翼を宇宙にまで羽ばたかせ、数十年先の未来においてもお客様の要望に応えられる企業でありたいと思っております。コーポレート・ガバナンスのさらなる強化や、ダイバーシティー経営の推進などを通して、安定的かつ継続的な発展を目指してまいりますので、なお一層のご理解とご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

中長期戦略

中長期戦略 ～さらなる成長へ～

今後のさらなる成長、企業価値向上のため、既存事業の拡大を推進するとともに、グローバル展開を加速します。

■ 売上高 (単位:百万円)
● 営業利益 (単位:百万円)



※ 2017年12月期は、比較参考のため全社2017年1月～12月の1年間に換算した数値を表記しています。

実績

2020年12月期までに売上高932億円、営業利益106億円を展望

ソディックは、持続的な成長による企業価値のさらなる拡大に向けて積極的な取り組みを進めるべく、毎年、中期経営計画を見直しております。

成長戦略の一環としての国内外の設備投資を増強するとともに、ワンストップソリューションを活かした製品群の展開により、各事業の相乗的成長を図ります。

また、各セグメントの経営戦略の着実な実行によりグローバル展開を強化、マーケットシェア拡大を図り、2020年12月期までに、売上高932億円、営業利益106億円を目指します。

計画

経営戦略

工作機械事業

▶ 全地域におけるマーケットシェア拡大

- 新興国マーケットにおいて、低価格機種「VLシリーズ」の販売強化
- 先進国マーケットにおいて、当社主力製品である高精度ワイヤ放電加工機「ALシリーズ」を拡販

▶ 金属3Dプリンタの販売・研究開発を加速

- 金型分野での競争優位性を高めると共に、部品加工分野への市場開拓により販売台数増加を図る
- 造形速度、メンテナンス性の向上、使用材料のラインナップ拡充により市場を拡大

▶ 生産の効率化、部品の共通化により製造原価を低減

産業機械事業

▶ 海外売上高比率を70%以上に向上

- 製造原価の低減、販売体制の再構築・営業強化
- マーケットニーズの高い全電動射出成形機（MSシリーズ）の拡販

▶ ラインナップの更なる拡充により、新たな需要を創出

- アルミニウム射出成形機「ALM450」をダイカストマシンに代わる主力製品に育てる
- 金属3Dプリンタ専用射出成形機「MR30」による自動生産システム「ICF-V」の拡販

▶ 収益力強化を目指した原価低減プロジェクトへの取り組みを推進

食品機械事業

▶ 工場拡張による収益力の強化

- 生産能力の増強により納期短縮を目指す

▶ 海外市場向けの製品開発により海外売上高拡大

▶ 製麺機以外の製品開発及び販路拡販

- 包装米飯製造装置の国内外での販売強化

SPECIAL FEATURE

特集
01

技術戦略の今

顧客ニーズに応え、技術革新を積み重ね 次世代技術の開発を強力に推進

▶ 本社・研究開発棟を中心的拠点に、最新技術の開発に取り組む

当社は、創業以来一貫してお客様の「ものづくり」に貢献することを理念とし、最高水準の加工精度、加工速度そして多機能化を追求して日々研究開発を進めております。

中でも、ソディック製品の「頭脳」の役割を果たすNC装置など、機械のコントローラー部分に関しましては、日本、中国、北米の世界3極体制で、現地の最先端技術を取り込み研究開発を行っております。

研究開発の中心的拠点である日本では、放電加工機など製品の性能や品質に関わる研究開発活動を行いながら、ソディックグループ全体の研究開発に関する管理を統括しております。2018年5月には、横浜本社敷地内に新研究開発棟

が完成しました。この研究開発棟では、これまでの放電加工機やマシニングセンタに加え、金属3Dプリンタや射出成形機の研究開発、新電源、新世代CNC等の新たな要素技術及び次世代技術の研究開発を予定しております。

1991年に設立した中国・上海のShanghai Sodick Software Co., Ltd. では、ヒューマンインターフェイスを中心としたソフトウェアの開発を行っています。上海交通大学の教授とも古くから交流があったため、優秀な技術者を採用し、研究開発を行っています。

また、最先端ITの集積地であるアメリカのシリコンバレーには、2000年にSodick America Corporationを設立。ソディック製品の頭脳ともいえるNC装置からの指令に基づきリニアモータの高速・高精度な動作をコントロールするモーションコントローラーの開発を行うとともに、現地法人ならではの情報集約力で時代の潮流や最先端テクノロジーの動向をキャッチし、当社の基本姿勢である「世の中にないものは自分たちで創る」という開発精神を、グローバルな視点に立ってさらに推し進めています。

■ 本社
■ Shanghai Sodick Software
■ Sodick America Corporation

代表取締役会長
金子 雄二

■ 開発拠点

COLUMN

横浜本社新研究開発棟を拠点に、次世代技術の開発を強化

新たな先端技術の開発を強力に推進するための拠点として、2018年5月に横浜本社技術・研修センター内に新研究開発棟が完成いたしました。これまでの当社コアテクノロジーを基盤に、当社グループのテクノロジーを結集し、金属3Dプリンタや射出成形機、要素技術など、次世代技術のより効率的な研究開発及び製品化を目指します。



▶ SiLEDや金属3Dプリンタ粉末材料など研究や知識の集約による綿密な開発に注力

当社では2018年12月期の研究開発費として約42億円を見込んでいます。こうした研究開発に関する費用は、新たな技術開発への投資だと考えています。

例えば、今後の製品開発の観点からは、SiLEDの研究や知識の集約が必要だと考えております。金属3Dプリンタでは、レーザーを用いて金属粉を溶融、凝固していきます。金属3Dプリンタの性能を高めるにあたり、当社も、半導体レーザーやガルバノコントローラーによる制御まで、すべての技術に対し理解を深めていくことが必要だと考えています。また、金属3Dプリンタで重要となる粉末材料に関しても、綿密な研究が必要となります。

さらに、射出成形機の開発に関しても、アルミニウム対応の成形機や環境に配慮した省エネの全電動成形機、金属3Dプリンタで造形した金型専用の成形機など、新たな需要を創出するため、製品の開発を強化していく方針です。

加えて、今後はものづくりにおいて環境や省エネへの配慮が不可欠です。それぞれの性能を維持しながら、こうした環境や省エネへの性能も高めるための研究開発費も含んでいます。

次代の産業を支える「ものづくり」のリーダーとして、お客様のニーズにすばやく応答できるよう、常に技術革新を繰り返し、中長期的な視野に立った研究開発を進めることが、当社の使命であると考えています。

▶ グローバルな視点に立った技術革新を積み重ね事業拡大を図り、世界の「ものづくり」を支える

毎年、予算を作るうえで行う合同技術会議は、各拠点とテレビ会議を繋ぎ、百数十名規模で開催します。多様化する技術の中で、各開発テーマの足並みを揃える重要な機会です。

その中で10年レンジの長期的計画を立てたうえで、新しい技術に対応し製品の性能も変えられるよう短期的な進捗確認も行いながら、それぞれのベースのロードマップから計画を上げていきます。常に市場のニーズを掴み、要求に対応できるグローバルな視点に立った技術革新を積み重ねながら、既存の事業拡大に加えて新規事業も上積みしつつ、世界中のあらゆる「ものづくり」を支えていきたいと考えております。



▲ 合同技術会議の様子

▶ 研究開発費の推移

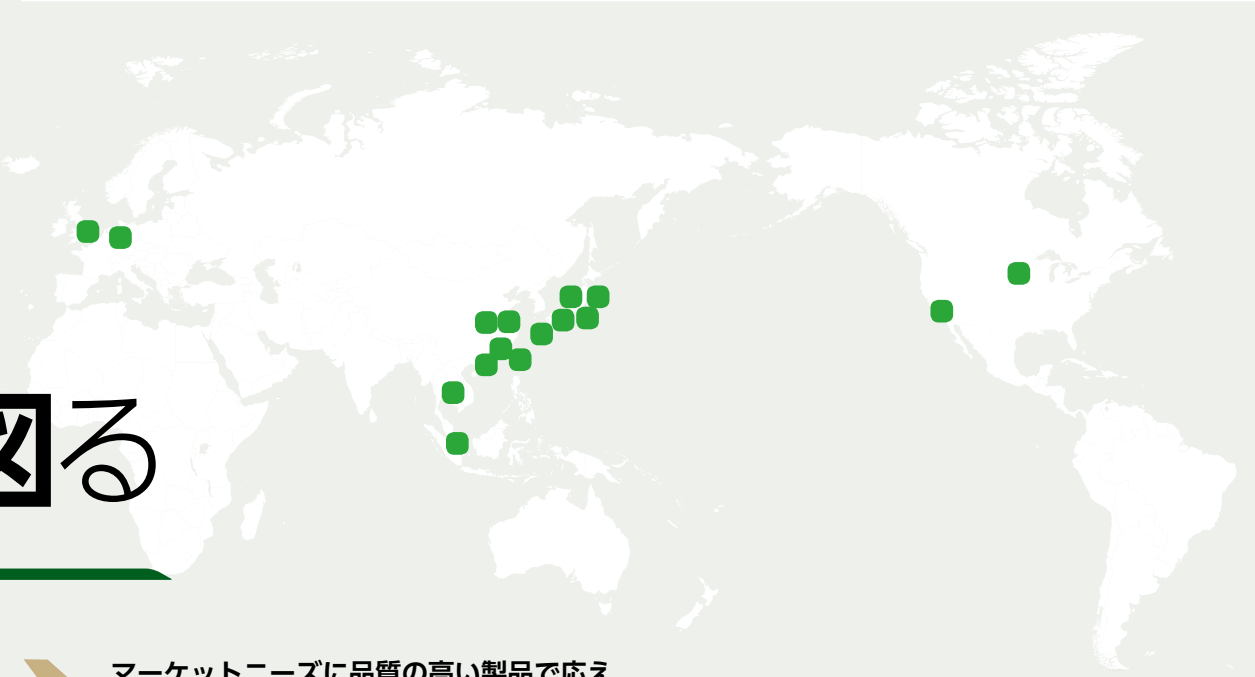


※決算期変更に伴い、2017年12月期は当社及び3月決算会社は4～12月の9か月間、12月決算会社は1～12月の12か月間を連結対象期間とした変則的な決算となっております。

SPECIAL FEATURE

特集
02 海外戦略の今

マーケットニーズを掴み 海外市場でのシェア拡大を図る

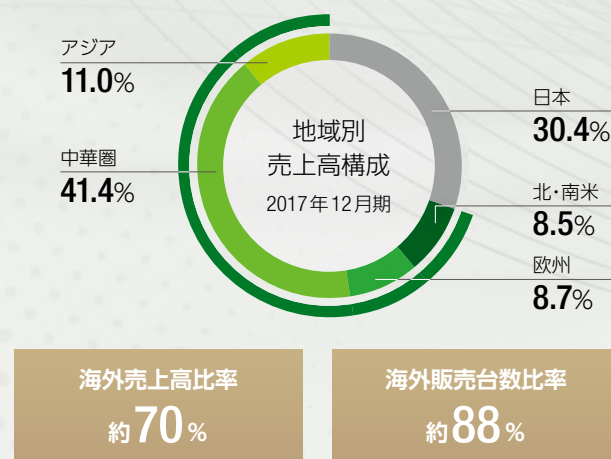


ものづくりの高度化が進む中国を中心に 売上高・販売台数の持続的な成長を目指す

当社の売上高のうち、海外売上高は約7割にのぼり、放電加工機の台数ベースでは8割以上を海外で販売しています。特に中国での需要はここ数年大きく伸びており、海外での販売台数の6割弱を中国が占めています。

こうした好調の背景には、近年、中国で製造される様々な最終製品の品質が向上する中、金型の精度向上が求められ、生産設備の更新需要が一般の加工業にも拡大している状況があります。当社は市場開放が始まった直後から、競合他社に先駆け中国での生産拠点の設立及び販売網の整備に取り組み、リニアモータを搭載した高精度な放電加工機の現地生産・現地販売の実現に向け、努力を重ねてまいりました。そうした取り組みが、中国でのソディックの知名度向上や製品への信頼につながり、売上高・販売台数ともに持続的な成長を達成しています。

地域別の売上高構成



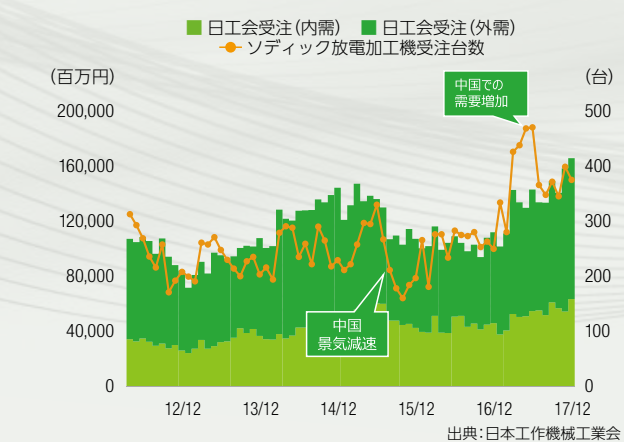
ASEAN地域においても、売上高は好調な推移を続けています。こうした状況を追い風に、各地域の営業拠点の整備やショールームの拡充などを図ってまいります。ASEAN地域では、工場のあるタイを中心に、サポートネットワークの強化に注力してまいります。

北米・シカゴの営業拠点は、ショールームとテクニカルセンターを備えた新オフィスへの移転が完了いたしました。

欧州・英国の営業拠点においても、新オフィスの建設を予定しており、更なる営業体制の強化を図ってまいります。

欧米は当社の中では比較的シェアが低い地域ですので、展示会への出展、ニーズに応える製品開発を通じてシェアの拡大を目指してまいります。

日本工作機械工業会 工作機械受注金額・ソディック放電加工機受注台数



中国での需要増加を背景に、受注台数は増加傾向

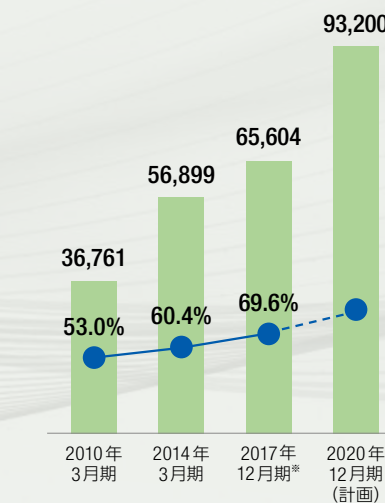
マーケットニーズに品質の高い製品で応え 全マーケットでシェア4割を目指す

今後の全体方針としては、引き続き世界の各マーケットでのシェア4割を目標としています。既に、中華圏を含めアジアで高いシェアを達成できているのは、現地で高精度な機械を生産し、サプライチェーンを安定させ、現地の人とのつながりを重視してきたことが大きな要因と考えています。これまでもアジア圏の全販売会社トップが集まるアジア営業会議や、各販売拠点との営業会議等で情報や戦略を共有し、全社一丸となって販売網の強化に取り組んでまいりました。今後は放電加工機だけでなく、射出成形機の現地生産・現地販売の強化に取り組むと考えています。また、マグネシ

ウムやアルミニウム対応の射出成形機や全電動射出成形機など、ラインナップの強化を図りシェア拡大を目指してまいります。

北米では競合他社とのシェア争いが拮抗していますが、航空宇宙、医療機器関連向け等の高付加価値製品への需要が堅調であるほか、金属3Dプリンタの販売にも注力してまいります。欧州では、シェア拡大を目指し、自動車、航空機、精密機器関連等に向けて販売強化を目指します。当社では、今後も、各マーケットの要望に応えられる製品づくり、柔軟な組織づくりに努めてまいります。

売上高と海外売上高比率の推移 (単位:百万円) 全マーケットでシェア4割を目指し、売上を拡大



※決算期変更に伴い、2017年12月期は当社及び3月決算会社は4～12月の9か月間、12月決算会社は1～12月の12か月間を連結対象期間とした変則的な決算となっております。

代表取締役副社長
(営業統括担当)
高木 圭介



SPECIAL FEATURE

特集
03 成長戦略の今

中長期的な成長に向けて 経営基盤を強化

国内外の設備投資を強力に推進

ソディックグループは、中長期的な成長に向けて、国内外の設備投資に注力し、経営基盤の強化を進めております。

生産拠点では、事業環境や市場の変化に柔軟に対応する生産体制を構築するため、放電加工機、マシニングセンタ、金属3Dプリンタ、射出成形機など、多種多様な製品の生産が可能なマルチファクトリーの建設を進めています。また、福井にあった物流センターを加賀事業所内へ移転し、梱包、輸送効率向上、コスト削減を図ります。海外では、タイ工場の第2工場・第2建屋を増設し、増産体制の構築を進めます。

販売拠点では、北米の販売拠点として新オフィスを建設し、精密金属3Dプリンタや放電加工機を展示するショールームを拡張いたしました。これにより、金型及び航空宇宙分野で世界最大市場である北米での販売体制を強化します。欧州でも、英国の販売拠点で、人員増加、販売体制・サービス体制強化のため新オフィスへの移転を進めています。販売台数増が見込まれる中国でも、上海・新オフィスへの移転を実施し、中国市場での販売体制を強化しております。

研究開発では、横浜本社・新研究開発棟を拠点に、精密金属3Dプリンタ関連の研究開発、新電源、新世代CNC等の新たな要素技術の開発、次世代技術の開発を強化してまいります。

